

ゆめみにゅーす



YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 52
発行日 令和元年5月2日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030

飼育展示数 哺乳類:23種155点
鳥類:24種92点
爬虫類:10種78点
(平成31年4月末日現在)

春の植物と



4月、加瀬山と動物園にも春の花が咲いています。桜の花は皆見に訪れますが、足元にはスミシ、キツネザルのグラウンドにはシャガ。ヤマブキも咲き誇っています。地味ですがクヌギの花が獣舎に舞って掃除が大変になるのにも季節の移ろいを感じます。

新任職員紹介

小学生の頃からずっと夢だった動物園の飼育員になり、毎日大好きな動物と関わることができてとても充実しています。はやく一人前になれるように一生懸命努力していきます。これからよろしくお願いします。(岡田浩輔)



飼育員として未熟者ではありますが、1日でも早く動物や皆さんに貢献できるよう努力してまいりますので、よろしくお願いします。(伊藤修)

新しい職場に新しい仕事で毎日メモを片手に悪戦苦闘する日々を送っていますが、夢見ヶ崎動物公園の動物たちとご来園のお客様のために精一杯頑張ります。(斎藤信)



21年ぶりに飼育員として戻ってきました。前よりも動物が増えているので、エサづくりにてんてこまいしています。早く職場の皆さんの力になれるように頑張りたいと思います。(村木一雄)



*公式フェイスブックはじめました。詳しくはこちらから。



★ピックアップ動物★

アメリカアカリス 哺乳綱 齧歯目 リス科

北アメリカ大陸の森林地帯に生息します。3月に日立市かみね動物園からやってきた3頭が、このたび展示場にお目見えしました。これまで展示場にいた高齢のカンタロウは、引き続き病院でのんびりと療養生活を送っています。

野生では木の実や果実、花やキノコなどを食べ、食べ物が少なくなる冬に備えて秋に見つけた食べ物をあちこちに埋める「貯食」行動を取りますが、場所がわからなくなるなどして掘り返されなかった木の実が春に芽を出し、やがて木になることも。貯食は大事な本能なので、飼育下でも巣箱の中や陰などに餌を隠しています。トンネル通路のちょっとしたでっばりの陰にも隠すのですが、実は下から見ると丸見えです。

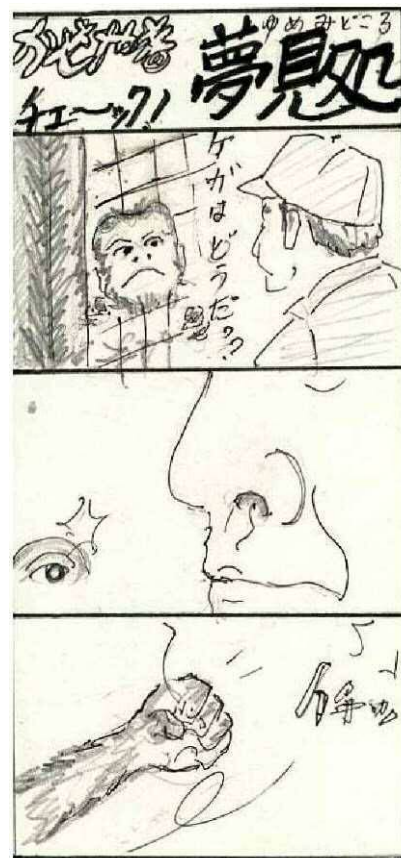


獣医の日記

体調を崩した動物の一部は、病院に入院して治療をします。病院の常連になるのは当然好ましいことではないのですが、まったく病もけがもなく過ごす動物がいる一方で、たびたび入院する個体もいます。

そのうちの1頭がプレーリードッグのオス、ピーターです。歯を折ったり、顎に膿がたまったりして何度も入院しているのですが、今回は皮膚に真菌(カビの仲間)が感染して毛が抜けてしまい、しっかり治すために入院することになりました。

病院慣れしているピーターは、以前の入院でも我が家のようにくつろぎ、ヒトが部屋に入ってくると、かまってほしくて声を上げ、あごやお腹を撫でてもらってウトリしていたのですが、今回の入院はプレーリードッグのオスが発情期を迎え、非常に攻撃的になる冬です。現に、入院直前のピーターは、清掃や給餌でやむなく展示場に入る職員を威嚇し、時には飛び掛かって噛みついてくるほどでした。こんな状態での入院だったので、病院でも以前のように甘えてくるどころか、おとなしくしていないのだろうな…と思っていたのですが、不思議なことに、入院翌日から嘘のようにおとなしくなり、以前のように甘えるのです。他の個体と一緒に強いオスとしてメスを手に入れなくてはならないのですが、その必要がなくなったからなのか、それとも入院室がよっぽど落ち着くのか、真相はわからないものの、良い患者さんなので助かっていることは確かです。



★動物たちの主な移動(平成30年2月1日～平成31年4月30日)★

アメリカアカリス(♂1 ♀2搬入:かみね動物園)、ヨウム(♀1搬出:かみね動物園)、フンボルトペンギン(性別不明1繁殖)、クロキツネザル(♂1死亡)、エリマキキツネザル(♀1死亡)、マーコール(♀1死亡)、ミノヒキチャボ(♀1死亡)、コモンマーモセット(♀1搬入:日本モンキーセンター)、ホンシュウジカ(♀1死亡)